

令和元年度 半田市障がい者自立支援協議会 子ども部会 ターゲット別研修②「中堅者向け研修」

発行元：半田市 令和元年 11 月

今年度2回目のターゲット別研修は、障がい児通所支援事業所の要となる中堅職員や児童発達支援管理責任者の方を対象として、『CHILD FIRST』の考え方から、子どもを中心とした本来の支援のあり方を考えていただくための研修を実施しました。

日時：令和元年9月30日（月） 10時～12時
場所：半田市役所4階 大会議室
対象：障がい児通所支援事業所の4年目～5年目の職員
児童発達支援管理責任者
講師：（特非）日本相談支援専門員協会 顧問
福岡 寿 氏



『CHILD FIRST』の視点とは

- ・障がいとして捉える前に、児童として向き合うことが原則。
 - ・子ども本人のためのプランを考える。
親や事業所の主導ではなく、子ども本人のニーズを中心とすることが大切である。
 - ・福祉サービスを活用して、本来の社会モデルの場に戻していく。
- 例) 児童発達支援 → 保育所等訪問支援 → 保育園
放課後等デイサービス → 保育所等訪問支援 → 児童館・放課後児童クラブ

発達に心配のある子ども本人を支えていくためには

本人にとって適切な支援とは、本人の発達特性を特性としてとどめ、適応障がいへ繋がらないようにする事です。幼少期の、なるべく早い段階から、本人や家族の不安に寄り添える支援体制を作り、支援者と家族が一緒になって、本人のやりたいことや心の動くことを探り、どんな支援によって本人の得意なことを伸ばし、不得意なことをカバーできるかを探ることが大切です。

その結果、、、

- ・ 本人 自分の発達特性（得意、不得意など）を自覚した上で、自己肯定感を持つ
- ・ 家族 本人の苦手なことやその支援について理解し、本人の気持ちを応援する
- ・ 関係機関や地域 発達特性を踏まえ、本人の頑張りや家族による応援を支える方法を共に考えていく

～参加者アンケート～

- ・ 障がいではなく、特性にとどめておくことが大切というお話がとても参考になりました。その特性にとどめておくために支援者が何をできるか考えていきたいと思えます。
- ・ 放デイのあり方、スタッフの関わり方など、根本から考えなおす必要があると思えるいい機会になりました。

問い合わせ先

発達支援相談あゆみ(都筑)
TEL 0569-21-6077
半田市役所子育て支援課(梁川)
TEL 0569-84-0657